

第1回 全国支部長会

6月5日(日) 神田キャンパス

全国の支部長が意見交換し、情報を共有

第1回全国支部長会が6月5日(日)、神田キャンパスで開催され、全国から集まった支部長及び支部役員が意見交換をしました。



↑議長を務めた出雲高志平成 28 年度育友会長
(中央)

↓育友会事務局スタッフ



前日の定期総会で選出された出雲高志平成 28 年度育友会長は初めに、「今日は支部の運営や活動内容について活発な議論をしていただきたい。各支部での取り組みをお聞きしながら、問題点があれば解決策を模索したい」と全国から集まった支部長、支部役員に呼びかけました。続いて、湯浅敏明専修大学常務理事、庄菊博育友会主任教授(法学部教授)が挨拶を述べ、第1回全国支部長会が始まりました。

まず、先の常任役員会で決定した支部懇談会特別援助金の取り扱いの変更点について出雲会長から説明があり、これに対して上がった質問に回答がなされました。

続いて、夏の支部懇談会についての説明では、学生による就職活動体験談の開催を希望するものの講演者の確保が難しい場合には、DVD 収録の就職体験談の上映や、自治体の就職支援センター職員による講演や相談会を実施するといった方法もあることが紹介されました。

さらに、入学式で実施したご父母・保護者へのアンケートの活用方法について話し合いました。

ある支部では、アンケートで育友会活動に興味あると回答した方を役員候補としたということです。一方、遠方のため入学式の参加者が少なく、満足なアンケート結果を得られなかったという支部もあり、入学式参加者からだけでなく、全会員へのアンケート実施を望む声も上がりました。

そのほか、少人数の支部では役員選出に苦労しているという声上がり、それに対し、役員になることで子供が学ぶ大学を見る機会や、大学の教職員と話す機会が得られるメリットを伝えるといいとの意見が出ました。

その後、支部活動特別援助金の取り扱いと次年度の支部懇談会の開催日程等について加藤淳子事務長から説明がありました。最後に育友会事務局スタッフが紹介され、閉会となりました。